

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

11

November
2019

山形県中小企業家同友会

月刊 同友

やまがた



新入社員フォローアップ研修



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす
中小企業経営者の全国組織

2019年度スローガン

備えよう、次のステージへ

～ポスト2020年～

半年間の自分を振り返り語り合って 目標を設定



10月3日、山形ビッグウイングにて社員共育委員会主催の新入社員フォローアップ研修が開催されました。35名の新入社員、経営者、先輩社員など、総勢59名が参加しました。

冒頭、庄司薫社員共育委員長が「この半年間いかがでしたか。新入社員研修の講義では『自分のブランド、自分らしさ』についてお話を頂きましたが、皆さんも自分というものを探しながらの半年間だったのではないのでしょうか。壁に突き当たることも、こんなはずじゃなかったと思うこともありながら頑張ってきたかと思います。今日はこの半年間を振り返り、グループで話し合いながら明日の自分の仕事に活かしていただきたいと思います」と挨拶を述べ、研修がスタートしました。

体験報告は㈱ニシカワ 阿部遼さん、㈱カーサービス山形 川村洋平さん、岡崎医療㈱ 田中絵里さんが担当。続いて行われたグループ討論では「仕事は楽しいですか？」をテーマに半年間を振り返り、嬉しかったこと、悩んだこと、失敗したことを語り合ってお互いの成長を確認しました。

講義では、「キャリアを積むということ」と題して、4月に開催された新入社員研修に引き続き㈱フロット 取締役五十嵐久仁子氏が、自身の経験やワークを交えて講義しました。

五十嵐氏は新入社員研修時の講義「自分ブランディングのすすめ」をおさらいしたあと、その際取り組んだ「スタートメントづくり」のワークを再度実施。自分の特徴を確認

し、自分はどんな存在で、これから何を指したいかを各グループで発表することで、参加者がこの半年間の成長を実感しました。その後、仕事の壁をどう乗り越えるかについて、㈱フロット先輩社員の声として、まずは自分で考える、先輩、同僚、他部署、友人、親、恩師に相談する、相談までいかずとも話を聞いてもらう、プライベートで切り替えるなど、人それぞれの意見が紹介されました。そして自身が今までしてきた失敗から得た教訓として「初心を忘れた自己判断には大きなリスクが伴う」「企業は目的集団。上は下を目的達成のためにフォローする。フォローされるために自分の悩みを伝えることも大事」「自分に見えるのは会社のごく一部のみ。とても半年、一年で見られるものではない。どんな山でも似たような雑木林を抜けた先に頂上があるのと似ている」と語りました。そして最後に「仕事に壁はつきもの。それを周囲の助けを借りてでも乗り越えることが成長につながり、またその姿こそ周囲の励みに、中小企業の希望になる」とエールを送りました。



午後には、お互いの課題や目標を話し合い、「知識要件」「技能要件」「どんな社会人になりたいか」という3年間の目標を設定し、全員が壇上で決意表明をおこないました。

(株)ニシカワ 阿部遼さん



私はこの半年間、鶴岡工場機械課の仕上げ係として働いてきました。最初は仕事や人付き合いなど上手くやっていけるかかなり不安でした。初めのころは工具の扱いもうまくいかず、小さな製品の仕上げですら時間がかかっていましたが、先輩方が近くで見てすぐアドバイスをくださったり、何度も手本を見せてくださったおかげで、今では当初の半分の工数で製品を仕上げることができたり、精密作業も徐々にできるようになりました。いまはバリ取りの作業も行っています。工具の使い方は先輩に教えていただきましたが最初は慣れず、何度も教えていただきました。リユーターなどでは取れないような小さいバリは、使わなくなったヤスリ、タップ、ドリルなどを加工しサツパ、ヒッカケという工具を自作して取り除いています。ヒッカケは、ヤスリをバーナーであぶって微調整しながら曲

げていくのが難しいうえ、刃の部分が均等だと製品の表面に傷をつけてしまう可能性もあるため、不揃いにしなければいけず苦労しました。段差のバリ取りは、段差自体を傷つけてはいけないため、モニターという小さな工具を使います。刃が小さく扱いが難しいため、以前は傷つけてしまう事もありましたが、今ではほかの先輩方と同じように傷つけることなく仕上げることができるようになりました。工場で働く方はみな私にやさしくしてくださり、よく話しかけていただけます。自分はあまり人づきあいが得意でないため心配が大きかったのですが、先輩方のおかげで不安が軽くなりました。まだこちらから話しかけるのに慣れていないため、もっと自分からコミュニケーションを取りたいと考えています。今まで工場で半年間働き、自信も出てきましたが、まだ一人ではできないことも多く、不安なこともたくさんあります。これから先も先輩方を手本とし、一歩ずつ成長していきたいと思っています。

(株)カーサービス山形 川村洋平さん



4月に入社したころと比べ自分でできることも増え、仕事の楽しさ、大変さを日々感じています。現在の主な仕事は展示車のプライスカード、装備品のポップ作成、お客様の車の引き取り、お届けの手伝い、接客や商談です。プライスカードは、パソコンで調べながら値段やグレード、車検有無、走行距離などを調べて作成します。ポップ作成は、パソコンだけでは調べられず目視しなければいけないため労力がかかる仕事ですが、知識がまだない自分にとっては車の機能を知る機会になっています。7月から正社員となり先輩の納車や引き取り、お届けの手伝いができるようになり、いろいろな場所に足を運んでいます。土日は来店されたお客様に用件を聞き、車を見にいらした方とは商談をしています。一通り自分で行っていますが、まだわからない事が多く、その際には先輩にも入っていただい

ています。現在の課題がこの商談です。車の知識がないため、ニーズに合った車を提案しきれなかったり、お客様に聞かれてもわからずにスマートフォンで調べたりという場面が多くありました。言葉遣いの乱れや、登録処理を覚えきれていないなど、他の課題もありますが、やりがいもあります。一つは車を買っていただくことです。会社への貢献でもあります。二つ目は、買っていただいたお客様から「川村さんの第一印象が決め手になった」と言っていただくことです。知識がない分、一生懸命お客様のニーズを聞き、車を提案したことが良い結果につながったのではないかと思います。今後の目標は車の知識と話術の向上です。車を買うか悩む理由は、新車の場合、車の金額や性能、装備、中古車だと、加えて外装や内装に不満があるからだと思われます。そういった不満を無くしていくには、知識を身に着けて信頼していただくこと、話術を身に着けてアプローチすることが大事ではないかと思います。まだわからないこともあり未熟ですが、多くのことを経験できる社会人になりたいと思っています。

岡崎医療(株) 田中絵里さん



私は医療事務もこなしつつ、薬局の管理栄養士として働いています。半年間働いて思ったことは、報連相の大切さです。特に調剤は患者さんの命に関わる仕事です。報連相をおろそかにすると医療事故につながるため、これからも徹底していきたいです。また、時間の有効活用の大切さも学びました。一日の業務時間は決まっています。まずその日にやるべきことを考え、優先順位をつけたうえで行動することでスムーズに業務が行えます。また、自分の行動に責任を持つことの大切さも学ぶことができました。自分一人の行動が会社全体に影響してしまうため、わからないことはそのままにせず質問し、メモを取ってしっかり覚え、一つ一つの仕事を丁寧にやりたいです。電話対応は新入社員研修でも学びましたが、最初は相手の表情が見えないため判断がうまくできず、戸惑ってしまう事もありました。少しずつですが柔軟に対応できるようになってきたので、自信を持て

るようもっと努力していきたいです。また、管理栄養士としての栄養指導の仕事も少しずつ増えています。薬局に管理栄養士がいるということはまだ浸透していません。地域向けの栄養教室の場を増やしていけるよう努力したいと思います。8月ごろから実際に患者さんに栄養指導する機会をいただきました。それぞれの患者さんに合った指導が求められるので悩むこともありましたが、先輩をはじめ、職場の方々がたくさん助けていただきました。薬局での栄養指導件数を増やすためには、薬局に管理栄養士がいることを周知し、栄養指導を初回で終わらせずに継続していくことが大切だと感じます。患者さんの健康の手助けに少しでも携われることに感謝し、提供できる知識を増やしていきたいです。これからいろいろな仕事を任せられるよう自分から行動し、発言し、物事に臨機応変に対応できるようにしていきたいです。また、物事の優先順位をしっかりと考えたうえで行動し、時間を有効に使いたいです。これから何事も必ず目標を持ち、周囲の役に立てる人材として少しでも早く一人前になれるように日々努力したいと思います。

災害とグローバル化の時代に 中小企業振興条例を活かして地域をつくる



10月18日、中小企業憲章・条例学習会が開かれ、議員・行政の方も含め30名が出席しました。

冒頭、越前屋地域活性化委員長が「県内企業のほとんどを占める中小企業が振興しなければ地域が活性化しない。自治体の『条例制定後の活用』、中小企業の『条例の理解』というそれぞれの課題を解決するための学習会です。本日は一緒に学びましょう」と挨拶を述べました。



講演では昨年に引き続き京都大学名誉教授岡田知弘氏より「中小企業振興条例を活かして地域をつくる」と題してお話をいただきました。

岡田氏は現代を「災害とグローバル化の時代」とし、台風19号にも触れ、災害が頻発することを大前提とした町づくりが必要と提起。また経済活動が国境を越えグローバル化し、その利益は都市圏の多国籍企業や投資家に集中する一方で、工場閉鎖、耕作放棄地の問題や高齢化が進み地域で暮らすことが困難になりつつあると指摘。岡田氏は「山形県の企業の99.8%が中小企業であり、従業員の91.1%が中小企業。その方々の環境をつくる必要がある。その方向性を共有し、役割を明確にしていくのが理念条例」と語りました。

2019年7月時点で中小企業振興基本条例は全国443市区町村、山形県を含め44道府県で制定され、東日本大震災後に急増。背景には1999年中小企業基本法改定から始まる地方分権化の流れがあります。

高度成長期は大型公共事業・企業誘致政策でしたが、それらの利益はゼネコンや企業本社に移転。現在も法人所得の約52%が東京に集中しています。岡田氏は地域の企業、商店、農家、自治体等が地域内への投資額を増大させる「地

域内再投資」と、一次産業で生産した原材料を二次産業で加工し、三次産業で販売するなど地域内取引網を拡大し、地域外への販売でも収益が地域に還元・循環される「地域内経済循環」を提起。そして、商工業に限定せず、農林水産業活性化による国土保全や再生可能エネルギーの利活用、福祉、医療や教育など、総合地域施策として考えることが大切であると語りました。

その上で岡田氏は兵庫県が阪神淡路大震災の教訓として「地域中小企業を育成することが防災力を高める」と報告したことや全国での条例制定後の取り組みを紹介。「自治体の支出を地域経済に貢献させるために条例を生かす。主権者かつ圧倒的多数が中小企業従事者とその家族である住民の最大幸福を達成する自治体をつくる必要がある」と締めくくりました。

次に2016年に「川西町中小企業・小規模事業者振興条例」を制定した同町の産業振興課商工グループ主査・相羽洋氏が条例制定とその後の取り組みについて報告しました。

相羽氏は制定にあたって具体的施策を第5次総合計画に盛り込み条例との整合性を図ったこと、町内の8割を占める小規模事業者を重点的に支援するため名称に小規模事業者を入れたこと、地域の持続的発展には人材育成が課題であるため教育機関の役割を明記したことなどを特徴として説明。

条例制定後は資格取得支援、創業支援、中小企業チャレンジ支援事業などの補助金を新設、商工会の各部会総会における施策説明会の実施、またマッチングのための川西町製造業ガイドブック作成、若者に向けた川西町企業ガイドブック作成と管内高校への配布、川西町雇用対策連絡会議の開催といった取り組みを紹介。課題として人手不足問題に支援が足りていないこと、制定後の事業内容のチェックに至っていない点を挙げました。

その後「中小企業振興条例をどう生かすことができますか」をテーマにグループ討論が行われました。参加者からは「いかに夢を描くか。地域のために手を取り合って、知恵を絞って行動に移していきましょう」「行政だけ、企業だけ、若者だけではなく、皆が住んでいる地域の課題や長所を理解しているみんなの意見をまとめて良くしていこうと思う。地域内循環をいつかできるようにしてみたい」といった声が寄せられました。

学内合同企業説明会

中小企業の魅力を発信し、地域に若者を残そう

9月24日、山形大学を会場に共同求人委員会主催の学内合同企業説明会が開催されました。当日は会員企業21社が参加し、共催の山形大学・東北芸術工科大学をはじめとする県内外の学校より17名の学生が参加しました。

説明会に先立って行われたガイダンスでは、はじめに佐藤共同求人委員長が「大企業と中小企業は役割が違い、中小企業は地域に密着して活動している。今回の説明会では、ぜひ各企業の地域との関わり、そして企業の魅力を探ってもらいたいと思います」と挨拶しました。その後参加企業1社ずつPRタイムが行われ、経営者・採用担当者自ら会社の理念・ビジョン・会社概要などを分かりやすくかつ印象的に伝えました。



各ブースでの説明会では、各学校の就職担当者から学生へのフォローも手厚く、通常の合同企業説明会より学生の滞在時間が長く、多くの企業ブースに説明を聞きに行く姿が見受けられました。学生からは「話を聞きやすい雰囲気、応募してみようというきっかけになった」「参加して就活の不安が少し和らいだ」などの感想が寄せられました。

参加企業からは「学生から応募があり内定を出した」「学生に説明している中で自社に足りないところを認識することが出来た」「今後も継続して開催してほしい」と報告があり、実りのある説明会となりました。今後も共同求人委員会として地域の中小企業の魅力を伝える場をつくれるよう、各学校との信頼関係構築に取り組んでいきます。



山形大学低学年インターンシップ成果報告会

インターンシップを通して学生も企業も変わる

9月27日、山形大学低学年インターンシップ成果報告会が山形大学小白川キャンパスにて開催されました。この低学年インターンシップは、5年前より山形同友会と山形大学が連携して取り組んでおり、今年度は会員企業37社で山形大学の1年生61名を受入れました。当日は各教室に分かれ、学生が受入先での3日間の実習の成果を発表し、受入先が総評する形式で行われました。

学生からは、3日間の実習の成果を個人目標の達成状況、中小企業のイメージの変化と魅力、働くとは何か、受入先へのメッセージ等の項目で発表があり、「中小企業は給料が低い、職場が暗いというイメージだったが、社長との距離が近く、自分の意見を取り入れてもらえる、成長の機会が多いというイメージが変わった」「中小企業が将来の就

職先の一つになった」「働くとは自分を成長させるものだと感じた」など成果が報告されました。

受入先からのフィードバックの後には、同友会形式でグループディスカッションが行われ、成果報告の振り返りや、受入先担当者からは社会人としての経験や中小企業で働く魅力などざっくばらんに語り合いました。

この低学年インターンシップは採用を目的としていませんが、受入企業側としては「採用力の強化」「自社の認知度や理解度の向上」「自社の社員教育・組織活性化」などのメリットがあります。同友会としては来年度以降も引き続き、各学校と連携を図りながらインターンシップ受入れに取り組んでいきます。



食農部会・さくらんぼ支部連携事業

「あなたとつくる山形フルーツワインプロジェクト」収穫祭開催!!



今年度食農部会とさくらんぼ支部を中心に始動した「あなたとつくる山形フルーツワインプロジェクト」の収穫祭が10月11日、さくらんぼ支部会員のペコリーノスペリオールにて開催されました。

この事業は会員企業で果樹生産者の松田農園とワイン醸造所の(同)東根フルーツワインが連携し、高品質なフルーツワインを造り全国に発信するプロジェクトです。今年度はさくらんぼの「佐藤錦」を使用し、事前に募集した賛同者が果実の収穫作業やワイン醸造作業を体験するな



ど交流型プログラムを通してオリジナルワインを造りました。

収穫祭当日は賛同者の約20名が集まり、出来たばかりのさくらんぼ佐藤錦ワインに参加者自らラベルを描いて自分だけのワインを完成させたのち、イタリア料理と共にワインを堪能しました。

この事業は来年度以降も継続する予定で、県内外からの賛同者を増やし規模を拡大しながら、地域での交流人口を増やし地域の活性化にもつなげていきます。

第16回経営研究集会

日時: **11月21日(木)**

14時00分～20時00分 受付/13:30 開会/14:00

会場: **ホテルメトロポリタン山形**

山形市香澄町1-1-1 ☎023-628-1111

参加費: 第1部 **2,000円**
第2部 懇親会費 **6,000円**

タイムテーブル

第1部	基調講演	14:00～15:35
	グループ討論	15:45～18:15
第2部	懇親会	18:30～20:00

第16回経営研究集会実行委員長挨拶



(株)山形ピッグファーム
阿部 秀顕

採用難なこの時代に、皆様の経営は大丈夫ですか？

人材の教育はできているだろうか？社員は成長しているだろうか？社員の自主性が発揮できる経営環境はできているだろうか？我々中小企業家同友会は「人を生かす経営」をバイブルとして、人間尊重の経営を実践する会であります。

第16回経営研究集会では「同友会運動の輪を広げ、地域になくしてはならない企業をつくらう」のスローガンのもと、3つの目的を掲げました。①人手不足が深刻な時代に、採用・社員共育・経営指針の実践をつうじて社員と共に育ち、自社の存続と発展、地域に人を残す契機とする。②

基調講演

「この会社」と「うちの会社」 社員がいきいきと働ける企業へ

講師: (株)EVENTOS 代表取締役 **川中英章氏**

(広島同友会理事・広報部長 中同協共同求人委員会 副委員長)

■設立: 1988年 ■資本金: 4千万円 ■年商: 4億3百万円

■従業員数: 51名(内パート22名)

■事業内容: 各種ケータリングサービス、催事の企画・立案・運営、飲食店(6店舗)、ワインショップ(2店舗)、産直市場(1店舗)、広島近郊の農村活性化

■HP: <http://www.eventos.co.jp/>

「働き方改革」を考え、社員が自主性や創造力を発揮できる為の採用と教育、そして労働環境整備に取り組む機会とする。③同友会運動の輪を広げることで、地域で生き抜く企業を増やし、仲間を増やし地域を活性化。これらの目的達成のため、報告者として、広島同友会より中同協共同求人副委員長の川中英章氏にお越しいただきます。川中氏は求人を目的に同友会に入会しましたが、求人に失敗し、求人に成功したかと思えば社員共育の壁にぶつかり、社員共育をうまくするためには経営指針が必要なことに気づきます。社員と共にビジョンを掲げることで会社が動き始めます。採用、社員共育、経営指針を軸とした同友会的三位一体の経営を実践している報告からは多くの学びがあるものと信じています。より多くの仲間を集め、より多くのゲストの方にご参加いただき、地域で生き抜く仲間を増やしていきましょう。

11月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

山形支部

セミナー

残席
わずか

もはや同業者にヒントは存在しない!?
異業種から学ぶ成功の法則!!

2019.11.26(火)18:30~20:00

場所:山形テルサ 3階 研修室A
山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

定員:50名(先着)

講師:山形市売上増進支援センター「Y-biz」
プロジェクトマネージャー 尾上雄亮氏

平成から令和に変わった2019年。今まで以上にビジネスにおける潮流やトレンドの賞味期限サイクルが早くなってきている。今まで通りの事を今まで以上にやっても昨対の70%という現状において、自分の業界の中にはヒントを感じない時代。だからこそ異業種成功事例のセンスや仕組みについて学ぶことに意義と価値が際立っている。丁度 Y-biz 発足から1年、山形市内外にて他業種の成功事例をけん引されている尾上さんが、「山形流」売上増進のヒントやボトルネックを「生の事例」や「考え方のヒント」を交えながら講演。「売上を増やしたいがアイデア不足で」という方へ全力でおすすめ!

さくらんぼ支部

同友会での学びを経営に活かす
~同友会を知る例会~

2019.11.28(木)18:30~20:30

場所:まなびあテラス 講座室
東根市中央南1-7-3

体験報告者:齊加商店 代表 齊加義三氏

今回の例会は「同友会を知る例会」と題して、同友会の活用方法を学び合います。新会員の方や、新会員オリエンテーションに参加したことのない皆様は、同友会をどのように活用していくかを知るチャンスです!

体験報告では、齊加商店 代表 齊加義三氏(さくらんぼ支部)に、「同友会」を自社にどう活用してきたか、どんな成果がでてきているのかをお話ししていただきます。

新会員の方は同友会で何を学ぶか・どう活かすかを知り、ベテランの会員の方は更に深めるきっかけになればと思います。また、「同友会ってどうゆう会?」とお思いのゲストの方も大歓迎!お知り合いの経営者をお誘いあわせのうえ是非ご参加ください。

全国行事案内

2019社員教育活動全国研修・交流会 in 岡山

社員と共に、人間らしく生きる
今、中小企業に求められる教育力とは何か

11.28(木) ▶ 29(金)

13:00~20:00
受付 12:00~

9:00~12:00

会場

ANAクラウンプラザ
ホテル岡山

会費

20,000円
(宿泊費は別、懇親会費含む)

第50回中小企業問題全国研究集会 in 京都

2020年

2.13(木) ▶ 14(金)

会場

国立京都国際会館

参加申し込み、お問い合わせは、山形同友会事務局までご連絡ください。

第6回理事会報告

◆日時:2019年10月15日(火)午後3時~午後5時 ◆会場:山形同友会事務局 ◆議長:後藤副代表理事
◆出席者:(敬称略):川合、菅原、後藤、志田、齋藤、赤塚、阿部、石川、板垣、伊藤、越前屋、大泉、小川、斉加、笹林、佐藤(栄)、佐藤(啓)、庄司、武内、田中、玉津、松岡、事務局 矢作、後藤、芳賀

■開会挨拶

川合代表理事より「台風19号により広範囲で被害が発生し、山形も床上・床下浸水、土砂崩れなど含めると60件ほどの被害が出たという。想定外の規模の災害で山形でも今後の備えを考えなければならない。同友会の仲間の被害も心配であり、中同協の報告を待って被害状況によっては見舞金などの対応についてもいざれ語りた」と挨拶がありました。

■学習会

小川理事氏から自動車業界と技術革新に関する動向とそれを踏まえた自社の指針、戦略について報告があり、その後質疑応答が行われました。

次期報告者:石川晴久氏

■報告事項

- 1)第47回青年経営者全国交流会(熊本) 9/12~13 7名参加 (文書報告)
- 2)中同協役員研修会(秋田)10/3~4 4名参加
板垣理事が、同友会の歴史と運動という側面を知り、各地同友会役員の方々と濃いグループ討論を行い、大きな学びとなり、東北の役員を中心に交流ができて元気をもったと報告しました。
- 3)中同協第2回幹事会(東京)10/8 2名参加
後藤副代表理事が、中同協5万名達成の目標の期限まであと半年で各支部の成功事例を共有しながら、5万名達成へ意思統一がなされたことと、全国行事の報告、承認事項などが議題となったことを報告しました。
- 4)第2回東北青年経営者フォーラム(郡山)10/12
後藤副代表理事より台風19号の影響により中止となったことが報告されました。
- 5)新入社員フォローアップ研修 10/3 18社56名(内新入社員35名)
庄司理事が、入社して半年間の嬉しかったことや悩んだことをグループ討論で話し合い成果と課題を確認し、講義では自分らしさを再確認する事が出来たと報告し、次年度に向けては参加企業の経営者に何を求めて社員を参加させているのか、同友会として研修の意義の再確認をしていきたいと語りました。
- 6)共同求人委員会よりの報告
・山形大学低学年インターンシップ(37社61名受入)
・インターンシップ受入れ(東北芸術工科大学11社11名受入 神奈川大学2社2名受入)
・山形大学学内合同企業説明会 21社参加 17名来場
・山形大学アライアンスネットワーク研修会
9/17 松岡共同求人副委員長が講演
佐藤(啓)理事がインターンシップでは受け入れ目標に限りなく近づいていることに対して協力のお礼を述べた後、インターンシップの成果発表会は参加者が年々増え、企業側に成長に役立つという認識が広まっていること、合同企業説明会では参加学生の微減はあったが、キャリアセンターの方々から同友会企業について説明していただいた学生が参加し採用につながる可能性があること、山形大学アライアンスネットワーク学習会では県内企業の人事担当者向けに松岡副委員長が同友会の取り組みを発表したことを報告しました。
- 7)2019年度9月月次決算報告
矢作事務局長より月次決算報告がありました。

■承認事項(入・退会承認) 入会4名 退会3名 10/15現在421名

■討議事項

議題1:組織目標達成に向けて

志田副代表理事より、組織委員会で具体的行動計画にまで至っていない現状と、役員全体に増強の意義が伝わっていない課題が出されたことと、各支部での今後の取り組みについての報告がありました。また、酒田地区の新たな組織をつくる事が決議され、準備委員長は佐藤栄司氏が担当することが決まりました。

議題2:2019役員研修会第2講のまとめ

川合代表理事から成果と課題について報告があり、「同友会は参加するたびに学ぶことが多く、自分の視点だけでは見えなかったことに気づき、経営に活かせることが多い。このような場をさらに増やし、人を生かす経営の根本的意味を深く理解し経営姿勢に反映させていきましょう」とまとめがありました。

議題3:第16回経営研究会について

阿部理事から開催要項、予算(案)、参加目標、タイムスケジュール、グループ長研修の提案があり承認されました。
(参加目標)

支 部	会員数	目標数	会員・社員	ゲスト	前回実績数
山 形	198	125	110	15	104
寒 河 江	55	23	20	3	25
さくらんぼ	38	17	15	2	15
置 賜	57	17	15	2	8
庄 内	50	12	10	2	10
新 庄 最 上	22	6	5	1	4
ゲスト(銀行等)					31
合 計	420	200	175	25	197

第1次集約日:10月24日(60%) 第2次集約日:10月29日(70%)

第3次集約日:11月7日(90%) 第4次集約日:11月14日(100%)

議題4:第50回中小企業問題全国研究会参加目標の件

川合代表理事より2020年2月13日~14日に開催される第50回中小企業問題全国研究会の参加目標5名の提案があり承認されました。

議題5:中同協消費増税影響緊急アンケートの件

川合代表理事より提案があり、中同協消費増税影響緊急アンケートを全会員対象として「e.doyu」にて実施することが決まりました。

■その他

- 1)他団体・機関からの依頼
・公益財団法人産業雇用安定センター「経済団体情報交換会議」参加依頼 11/6 川合代表理事参加
・山形大学基盤教育「社会理解」講師依頼 11/20 松岡共同求人副委員長担当
・大学生協東北地区就職支援企画「就活サブリ塾2021」参加企業依頼 2社
・きらやかマネジメントスクール 12/20 菅原代表理事、小川経営指針委員長担当
- 2)今後の予定

中小企業憲章・条例学習会	10月18日(金)13:00~T1スカンファレンスセンター
幹部社員研修	10月24日(木)18:00~山形ビッグウイング
技術革新学習会	10月28日(月)18:00~T1スカンファレンスセンター
米沢商工会議所インターンシップ視察	11月13日(水)
第16回経営研究会	11月21日(木)14:00~ホテルメトロポリタン山形
北海道同友会創立50周年記念式典	11月22日(金)
北海道東北ブロック事務局長会議	11月23日(土)
中同協事務局長会議	12月12日(木)~13日(金)愛知
東北ブロック事務局研修	12月19日(木)盛岡
中同協新春幹事会	1月10日(金)~11日(土)東京
2020新春交流会	1月28日(火)グランドホクヨウ(米沢)

3)次回理事会

●日時:11月11日(月)15:00~17:00 ●会場:同友会事務局

■閉会挨拶

菅原代表理事が「酒田地区の支部設立に向けては尽力していきたい。経営研究会をはじめ同友会行事が目白押しなので皆様のご協力をいただきながら進めたい」と述べました。

新会員紹介

◆秋葉卓哉氏

(株)アキバナーセリー
取締役部長
花卉園芸
山形支部

◆田中尚子氏

(株)斎藤工務店
チーフアドバイザー
建築業
山形支部

◆小野慎弥氏

(株)保険ネットワーク山形
代表取締役
保険代理業
寒河江支部

◆新保禎之氏

新保(株)
代表取締役
呉服販売 貴金属製造販売
置賜支部

社名変更 ●(株)フィデア総合研究所 ⇒ (株)フィデア情報総研 代表取締役社長 伊藤兵一氏(山形支部)





山形県中小企業家同友会

委員会だより

2019年度第3-1号 2019.11.1発行
山形県中小企業家同友会
山形市漆山大段 1865-5 TIS BLDG.201
TEL : 023-615-8302
HP : <http://yamagata.doyu.jp/>

【社員共育委員会】

「新入社員フォローアップ研修」の討議事項から

今月は3日（木）に「新入社員フォローアップ研修」が開催され、委員会で総括が行われました。

成果として挙げられたのは、半年がたち不安そうだった新入社員の表情が明るくなり、グループ討論でも自分の意見や半年間の様子を話せるようになり、成長を感じたということ。

今回も各グループに、入社1年～3年の先輩社員に1名入って頂き、グループ討論でリーダーシップを発揮して頂きました。

先輩社員からも「ここ数年を振り返ることができ、自分の成長を感じ大変勉強になった」と感想を頂き、来年も先輩社員が参加しての新入社員研修を開催することになりました。

課題として挙げられたのは、「3年間の目標シート」に関して、内容が難しすぎるということでした。新入社員にとって3年後の自分を想像するのが難しいのではなく、「技能要件」「知識要件」に分けて成文化するという作業に慣れていないために時間を取ってしまいました。各会社での社内教育のばらつきも感じられ、シートの内容については委員会内で共有する機会を設ける事になりました。

この度、本研修に満足していないという経営者の意見も頂きました。

研修に出しても経営者が思い描く成果が出ていないということでしょうか。

私たちの委員会で開催する研修は幹部社員研修を含め課題解決型の研修で、「気づき」を得て会社で実践する研修内容となっています。

そのためにグループ討論をし、シートを埋めて上席者、経営者とのコミュニケーションを図り、各社の社員教育のツールとして頂きたいと思っています。

経営者の方々にご参加していただき、どんな研修をして何に気づき、どんな課題を持ち帰ったのかを共有していただければと思います。社内での教育計画を立て会社の未来を描き、共に育ち合うための「気づき」を目的とした委員会と研修です。よろしくお願いいたします。

こんな討議をしながら、「共に育つ」という冊子を使っでの学習会も行っています。

自社の経営課題を持ってゲスト参加してみませんか？

次回委員会 日時：11月13日（水曜日）17時より

（基本的に第三水曜日に開催しています）

場所：山形同友会事務局

（山形市漆山大段 1865-5 TIS ビルディング 201）





山形県中小企業家同友会

委員会だより

2019年度第3-2号 2019.11.1 発行
山形県中小企業家同友会
山形市漆山大段 1865-5 TIS BLDG.201
TEL : 023-615-8302
HP : <http://yamagata.doyu.jp/>

【食農部会】

『あなたとつくる山形フルーツワインプロジェクト 第1回目』完成！！

去る10月11日に、本プロジェクトのワイン完成を祝う“収穫祭”を開催する事が出来ました！会場は同友会会員さんでもあります東根市のイタリアンレストラン、ペコリーノスペリオールさんです。前回の委員会だよりに寄稿したように6月に収穫したさくらんぼ佐藤錦でフルーツワインをつくり、賛同メンバーになって頂いた購入者の皆様を対象としたプレミアムなパーティーです！

当日はさくらんぼ収穫に参加した子供たちも含め総勢20名を超える参加者で賑やかにさくらんぼワインの完成を祝う事が出来ました。

18時からパーティーに先立ち、ワインの仕上げであるオリジナルラベルの作成を致しました。無地のラベルにそれぞれ個性的なラベルを手書きで作り、返礼品である自身のワインボトルに貼り付けていきました。皆さんが素敵なラベルを作り、お互いにいいね〜と笑顔になってしまう楽しい時間となりました。私事ですが、自分の子供が描いたラベルが貼られたワインはとても特別な1本となりました。



さて19時からはいよいよ乾杯の時間です。待ちに待ったワイン！皆、やや緊張の面持ちで先ず一口。次の瞬間皆の口から“美味しい！”の大合唱！参加者皆さんの笑顔が溢れました。この日はプロジェクトでのプレミアムワインの他にも東根フルーツワインさんのワインをたくさんお持ち頂き、さくらんぼワイン以外のフルーツワインも楽しませて頂きました。食事の合間には今回の原材料の舞台となった天童市の松田農園さんの松田さんより農場の特長や今、地域が抱える課題を含めお話頂いたり、ワインを製造頂いた東根フルーツワイン阿部社長よりフルーツワイン講座をお話頂いたり充実した内容でありました。もちろん、ペコリーノさんのイタリアンはワインと相性ぴったりで食事もワインも進む！



皆が笑顔で良い気分になってきたところで締めはこのプロジェクトを見守って頂きました山形大学の小野教授よりご挨拶を頂きました。これからの時代は所有するなど“モノでの満足”から経験、体験など“コトによる満足度”に需要がシフトしている、そこに地方や中小企業にチャンスがあるというお言葉を頂き、その観点に於いても本プロジェクトの可能性を再確認する事が出来ました。

参加者皆さん、プレミアムさくらんぼワイン 2 本と、松田農園さんの高級ぶどうをお土産に来年の参加も約束して頂き！？収穫祭の幕が閉じました。



さて実はこのプロジェクトはある意味ここから本番です。これから全てを精算し、収支を出し、精査して終了となります。本プロジェクトの目標は「計画通り」なのです。

本プロジェクトの主体者 2 社にはここまで完結して頂いて初めて生きた学びとなると思います。勿論、関わらせて頂いたメンバーにとっても同じことです。そして本年度の課題を抽出し、次年度に修正して繋げていく事で、少しずつ精度、満足度を上げていければと考えております。

私が今回感じた事は、やはり中小企業はそれぞれ“強み”を持ちあわせているという事です。今回も、松田さんの素晴らしいさくらんぼ、フルーツワインさんの素晴らしい醸造技術、ペコリーノさんの素敵なお料理があってこそこのプロジェクトの成功です。そこをどう見出すか、どう活かすか。皆様に共通のキーワードではないでしょうか。そしてそれを繋ぐものは“思い”である事も強く実感させて頂きました。

美味しそうだな～と思った皆様！次年度はより精度を上げて第 2 回を企画したいと思っております！先ずの課題である「早めの周知、告知」をさせて頂きたいと思っておりますので是非ご賛同、ご参加をお願い致します！多くの方が関わる事でより深い学びに繋がると思います。より地域に良い変化をもたらせられると思います！

そして、なにより次年度も“美味しい！”をつかっていきたいと思っております！



～収穫祭参加メンバーでの記念撮影～